

表11: 都道府県別市区町村回答数

コード	都道府県	度数	%
1	北海道	32	5.9%
2	青森県	7	1.3%
3	岩手県	8	1.5%
4	宮城県	14	2.6%
5	秋田県	16	2.9%
6	山形県	7	1.3%
7	福島県	13	2.4%
8	茨城県	15	2.7%
9	栃木県	4	0.7%
10	群馬県	13	2.4%
11	埼玉県	31	5.7%
12	千葉県	22	4.0%
13	東京都	11	2.0%
14	神奈川県	19	3.5%
15	新潟県	24	4.4%
16	富山県	11	2.0%
17	石川県	7	1.3%
18	福井県	3	0.5%
19	山梨県	4	0.7%
20	長野県	15	2.7%
21	岐阜県	12	2.2%
22	静岡県	20	3.7%
23	愛知県	44	8.0%
24	三重県	6	1.1%
25	滋賀県	13	2.4%
26	京都府	11	2.0%
27	大阪府	10	1.8%
28	兵庫県	10	1.8%
29	奈良県	11	2.0%
30	和歌山県	12	2.2%
31	鳥取県	5	0.9%
32	島根県	3	0.5%
33	岡山県	12	2.2%
34	広島県	10	1.8%
35	山口県	5	0.9%
36	徳島県	2	0.4%
37	香川県	2	0.4%
38	愛媛県	9	1.6%
39	高知県	5	0.9%
40	福岡県	11	2.0%
41	佐賀県	7	1.3%
42	長崎県	7	1.3%
43	熊本県	10	1.8%
44	大分県	6	1.1%
45	宮崎県	11	2.0%
46	鹿児島県	11	2.0%
47	沖縄県	1	0.2%
99	不明	5	0.9%
	合計	547	100.0%

## 子育てひろ場・子育てサロン等親子のたまり場活動のたまり場活動の内容に関する調査票

質問1. 貴活動における事業の実施主体についてお教えください。以下の選択肢から該当するものを一つ選んでください。

1. 市区町村(名称) ) 担当部署( )
2. 社会福祉協議会
3. 民生委員
4. 愛育班
5. ボランティア団体(名称) )
6. NPO法人(名称) )
7. 財団法人(名称) )
8. 社会福祉関係専業団(名称) )
9. 町内会
10. 地区住民の任意組織(名称) )
11. 社会福祉関連企業(名称) )
12. 一般地元企業(名称) )
13. その他(名称) )

質問1\_1. 前問で、5以降の回答を選ばれた方に、行政との連携についてお尋ねします(一つのみ)。

1. 委託専業として実施している
2. 資金援助を受けている
3. ほとんど無関係である
4. その他( )

質問1\_2. 質問1で、5以降の回答を選ばれた方に、連携している行政機関の部門についてお尋ねします(一つのみ)。

1. 保健部門
2. 福祉部門
3. 保健福祉部門
4. 社会教育(家庭教育、生涯教育)部門
5. その他( )

質問2. 参加者の主なアクセス方法のうち、最も多い方法を一つ選択してください。

1. 徒歩で来る人が多い
2. 自転車で来る人が多い
3. バスや電車など公共交通機関で来る人が多い
4. 自家用車で通ってくる人が多い
5. その他( )

質問3. 参加者の費用負担について教えてください(2の回答の金額では回または月のいずれかを選んでください)。

1. 無料
2. 定額の費を徴収している(差し支えなければ金額 円/回・月)
3. その他( )

質問4. 参加者の登録について教えてください(いずれか一つ)。

1. ひろ場(サロン)に参加する際、事前に住所・氏名による申し込みを求めている
2. 出入り自由であるが、当日受付名簿へ住所・氏名の記載を求めている
3. 住所・氏名等何らの記載も求めていない(フリーパスで自由に出入りできる)
4. その他( )

質問5. 参加者へのアドバイスはどなたがなさっていますか(該当するものすべて)

1. ボランティア(例:子育てパートナー)  
(名称: )
2. 保健師
3. 看護師
4. 助産師
5. 保育士
6. 心理士
7. 社会福祉士(ソーシャルワーカー)
8. 子育ての先輩として、現在子育て中の子育て経験者
9. 子育てを卒業した子育て経験者
10. 高齢者を含むシニア世代
11. 地区の民生委員
12. 母子保健推進員、保健推進員、健康増進員、食生活改善委員など地区活動委員
13. 愛育班員
14. 小児科医師
15. その他( )

質問5\_1. 問5で「1. ボランティア」とお答えになった方にお聞きします(一つを選んでください)。

1. 子育てに関するアドバイザーとして、特別な研修を受けた人
2. 子育てに関するアドバイザーとして、一定の基準を満たす人
3. 特別な条件は付けないでアドバイザーを希望する人すべて
4. その他( )

質問6. どなたが、子どもの保健や生活面での専門的相談に応じていらっしゃいますか（複数選択可）。

1. 保健師が専門的相談に応じている
2. 保育士が専門的相談に応じている
3. 医師が専門的相談に応じている
4. ソーシャルワーカーが専門的相談に応じている
5. 心理士が専門的相談に応じている
6. その他の有資格者（資格：\_\_\_\_\_）が専門的相談に応じている
7. 直接対応せず、専門機関を紹介
8. その他（\_\_\_\_\_）

質問7. 家族関係の問題への対応はどなたがなさっていますか（複数選択可）。

1. 保健師
2. 看護師
3. 助産師
4. 保育士
5. 医師
6. ソーシャルワーカー
7. 心理士
8. 教師
9. その他の相談員（\_\_\_\_\_）
10. 直接対応せず、専門機関を紹介

質問8. 活動場所について教えてください（主なものを一つ選んでください）。

1. 子育て支援のために用意された専用常設施設（名称\_\_\_\_\_）
2. 既存の公的施設に併設されている専用施設（施設名\_\_\_\_\_）
3. 公的施設を借用して開催（施設名\_\_\_\_\_）
4. 公的施設を借用して巡回で実施（施設名\_\_\_\_\_）
5. 民間の常設施設（名称\_\_\_\_\_）
6. 民間の併設施設（名称\_\_\_\_\_）
7. その他（\_\_\_\_\_）

質問9. ひろ場（サロン）の活動内容について教えてください

- 質問9\_1. ひろ場（サロン）開催回数
- グループ名1：（\_\_\_\_\_）
1. 週に（\_\_\_\_\_）回
  2. 月に（\_\_\_\_\_）回
  3. 不定期
  4. その他（\_\_\_\_\_）

グループ名2：（\_\_\_\_\_）

1. 週に（\_\_\_\_\_）回
2. 月に（\_\_\_\_\_）回
3. 不定期
4. その他（\_\_\_\_\_）

グループ名3：（\_\_\_\_\_）

1. 週に（\_\_\_\_\_）回
2. 月に（\_\_\_\_\_）回
3. 不定期
4. その他（\_\_\_\_\_）

グループ名4：（\_\_\_\_\_）

1. 週に（\_\_\_\_\_）回
2. 月に（\_\_\_\_\_）回
3. 不定期
4. その他（\_\_\_\_\_）

質問9\_2. ひろ場（サロン）の開催時間はどのくらいですか

1. 午前のみ（\_\_\_\_\_）時（\_\_\_\_\_）分～（\_\_\_\_\_）時（\_\_\_\_\_）分まで
2. 午後のみ（\_\_\_\_\_）時（\_\_\_\_\_）分～（\_\_\_\_\_）時（\_\_\_\_\_）分まで
3. 午前・午後（\_\_\_\_\_）時（\_\_\_\_\_）分～（\_\_\_\_\_）時（\_\_\_\_\_）分まで
4. その他（\_\_\_\_\_）

質問9\_3. 土日の開催の有無について教えてください

1. 開催している
2. 開催していない
3. その他（\_\_\_\_\_）

質問9\_4. 子どもの対象年齢を決めていますか

1. 未就学児
2. 学童
3. とくに決めていない
4. その他（\_\_\_\_\_）

質問9\_5. 子どもの年齢でグループを分けていますか（一つのみを選んでください）。

1. 分けています
2. 分けていない
3. その他（\_\_\_\_\_）

質問 9\_5\_1. 「1. 分けている」とお答えいただいた方にうかがいます。どのようなグループに分けていますか。

グループ名称	活動目標	年齢区分

質問 9\_6. 活動中における乳幼児の保育の有無について教えてください (複数回答可)

1. ボランティアに保育を頼んでいる
2. 専門の保育士に依頼している
3. 活動中の保育はしていない
4. その他 ( )

質問 9\_7. ひろ場に参加する親子は平均して何組ぐらいですか

グループ名	1 回平均	月平均延べ

質問 9\_8. ひろ場でのその日の活動の形態はどのようなものでしょうか (一つを選んでください)

1. 決められたプログラムに沿って支援者が誘導する
2. 親たちの自由な交流に委ねている
3. 親たちの自由な交流を主とするが、親子遊びやリズム体操などを組み込んでいる
4. その他 ( )

質問 9\_9. 講演会や勉強会を開催しますか

1. はい
2. いいえ

質問 9\_1. 前問で「はい」とお答えいただいた方にお尋ねします。

勉強会や研修会の内容はどんなものでしょうかお教えください

テーマ	講師の専門性	内容
例：子どもの事故	小児科医師	0～6歳までの子どもの発達と事故予防について

質問 9\_10. 季節の行事やイベントを催しますか

1. はい

内容を教えてください (ちらしのコピーでも結構です)。

2. いいえ

質問 9\_11. 障害のある子どもや発達に問題のある子どものための交流の場を別に用意していますか

1. はい
2. いいえ

質問 10. 虐待が疑われるケースがあったとき、専門機関あるいは地域の虐待防止ネットワークはうまくカバーしてくれていますか (一つのみ)。

1. ほとんどカバーしてもらえない。
2. カバーしてくれているが不十分である。
3. ケースによるが、まあ満足いく範囲でカバーしてくれている。
4. 十分にカバーしてくれている。

質問 11. 発送の遅れや障害が疑われるケースがあったとき、専門機関あるいはネットワークはうまくカバーしてくれますか。

1. ほとんどカバーしてもらえない。
2. カバーしてくれているが不十分である。
3. まあ満足のいく範囲でカバーしてくれる。
4. 十分にカバーしてくれる。

質問 12. インターネットを利用していますか (一つののみ)。

1. 利用している
2. とまどき利用する
3. ほとんど利用しない

質問 12\_1. 前問で「1利用している」とご回答された方にお聞きします。

1. Web ページ (ホームページ) を公開していますか (一つののみ)。

1. はい
2. いいえ
3. 準備中

2. メールによる情報提供をしていますか (一つののみ)。

1. している
2. していない
3. 準備中

質問 13. 広報・PR はどのようにされていますか (複数選択可)。

1. 市区町村役所 (庁) の窓口にならしめられている、あるいはちらしを配布してもらっている。
2. 市区町村広報に折り込まれている。
3. 関連機関の窓口にならしめられている、あるいはちらしを配布してもらっている。
4. インターネットを通して紹介している
5. 新聞の折り込み広告を利用している。
6. その他 ( )

質問 14. 運営に関するコンサルティングや助言を受けていますか (一つののみ)

1. 常に受けている
2. とまどき受けている
3. 全く受けていない

質問 14\_1. 前問で「1. 常に受けている」「2. とまどき受けている」と回答された方にお尋ねします。どこからコンサルティングや助言を受けていますか (複数回答可)。

1. 行政の担当部署 ( )
2. コンサルティング会社 ( )
2. その他 ( )

質問 15. ご回答いただいた方の年齢をお教えください (一つののみ)。

1. 20歳代
2. 30歳代
3. 40歳代
4. 50歳代
5. 60歳代
6. 70歳代以上

質問 16. ご回答していただいた方の性別をお教えください。

1. 女性
2. 男性

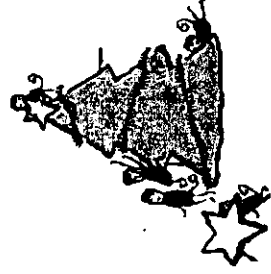
質問 17. ご回答していただいた方の職種あるいは身分をお教えください (複数選択可)

1. 事務官 (行政)
2. 保育士
3. 看護師
4. 保健師
5. 助産師
6. ソーシャルワーカー
7. 心理士
8. 医師
9. 栄養士
10. 民生委員
11. 母子保健推進員 (保健推進員、食生活改善委員を含む)
12. 愛育班員
13. 子育てアドバイザー (子育てパートナー、子育てサポーターなど)
14. ボランティア団体役員
15. NPO 役員
16. その他 ( )

所在地 都道府県

市区町村名

ご協力ありがとうございました



地域における子育て支援ネットワークの構築に関する研究

研究協力者報告書

地域における子育てマップ作成のプロセスに関する研究

研究協力者 草加子育てネットワーク 代表 八木下和江

【研究要旨】

当事者が作成する情報集の意義は、当事者であるから、「自分が知りたい情報＝読者が知りたい情報」である。あちらのパンフレットこちらのチラシなどに分散している既成の情報を取捨選択し、自分にとって本当に必要な情報（＝読者にとっても必要な情報）だけを凝縮して1冊にまとめることができる。

その際情報発信者に都合よく書かれている情報を、読み手の立場に立った分類のしかた、記述のしかたに翻訳(?)できるのである。当事者だからこそ既成の情報の不便さが分かり、それを分かりやすく翻訳(変換?)したいと考え、そうすることが可能になってくるのである。

さらに、当事者であるから、多くの子育て中の親が「こんな情報が欲しいけれど、どこにも載っていない」と嘆いているものが何であるのかが、身をもってよく分かっている。それは当事者でなければ分からない視点であり、当事者でなければそんなものが情報として必要とは思ってもみないものである場合も多い。また、おでかけ場所でも「子ども連れで行った場合の設備の整い具合」という観点から調べるということも、当事者ならではとと言えるであろう。

プロフェッショナルである編集プロダクションに依頼すれば、もっと体裁のいいスマートな情報誌が出来上がるかもしれない。しかし素人である子育ての当事者が作成する情報誌に、それに勝るものがあるとすれば、それは「熱意」ではないだろうか。ほとんどの編集メンバーが参加の動機として「自分自身も子育てについての地域の生の情報を知りたいから」ということを理由にしている。その「知りたい」という思いが一生懸命な取材や原稿作成につながり、出来上がりがどうであれその「熱意」だけは読み手にもひしひしと伝わるのであろう。それが読者に「次回は自分も参加してみたい」という気持ちにさせるのであろう。自分達自身が調べていく中で、今までの不平不満の不備な理由等が理解できて、色々な見方に変わり、自分の町の良さを知り大切にしたいとなる。こうして、一冊の子育て情報誌を通じて親たちの輪が広がっていくことは、地域の子育て支援を考えると、きわめて大切な事項になる。

見出語：子育てマップ 当事者 情報集 地域情報

## 1. 情報誌作成の目的と意図

### (1) 読み手を意識して

使い古された表現ではあるが、現代は情報社会である。インターネットの普及で、パソコンの前にいながら瞬時に世界中の情報が手に入る。これまでは新聞やテレビなどのマスメディアを通じてでなければ得られなかった情報が、簡単に手に入るのだ。しかし、いわゆる「ロコミ」情報、ミニマムなエリア情報などは、逆にインターネットでは見つけにくい。子育て中の行動範囲は基本的には「ママチャリエリア」（母親が自転車で行かれる範囲）である。母親としてはこの範囲の、地域密着の子育て情報は喉から手が出るほど欲しい。しかし、子どもを産むまでは地域の情報などにはほとんど無関心だった母親にとって、地域の情報を得る有効な手段はなかなかないものだ。

そこで、母親のニーズに応じて子育て情報誌が作成されるようになった。当初地域の子育て情報に関するものばかりを掲載するのが主流であったが、地域だけでなく、子育て全般に関する情報も取り上げられるようになった（もちろん主なるものは地域密着情報ではあるが）。

子どもが生まれると、児童館や公園・予防接種・各種子育て支援など、今まであまり縁のなかった情報も必要になってくる。転勤などで引っ越してきたばかりの人にとっても、地域の情報というのはすぐにでも必要なものと言える。もちろん、市役所や各機関でパンフレットやお知らせを配布していたりするが、それらをひとつひとつ集めてその中から欲しい情報を探したり、分かりやすく保存するのは大変である。また、お出かけや外食にしても、「子どもといっしょ」ということが大前提なので、大人だけを対象としたレジャーやグルメの本では欲しい情報が得られない。

こうした理由から、自分の住んでいる地域のあらゆる子育て関連の情報がひとつにまとまった「子育て情報誌」のニーズは非常に高まっているのである。

### (2) 作り手を意識して

情報誌作成メンバーはほとんどが現役子育てママである場合が多い。公民館事業などで保育付き講座として行われることが多いため、母子一体育児の閉塞感打破を求めて参加するお母さんが少なくないのだ。小さい子どもがいて外出もままならない親たちの受け皿的役割が大きい。実際、参加したきっかけは「無料保育付だったから」という声もある。また、同じように子どもを持つ友達に誘われて参加した人も多い。そして、皆講座の中でたくさんの仲間と知り合いになれてよかった、と感じているようである。公民館の講座としてであれ、ボランティアとしてであれ、自らが情報誌のページを任され、責任を持って仕上げるという過程で、参加者は様々なことを学んでいく。社会の中で、ある種閉塞されている母親たちに、学習の機会を与えるという意味でも、情報誌作成は貴重な事業といえる。

参加した編集メンバーの社会教育という側面もある。列挙してみると、

①原稿を作る上で電話で問い合わせやアポとりをしたり、実際に足を運んで取材するという

作業は欠かせない。面識のない人に電話をかけてこちらの意図を理解してもらい、取材前に質問を考えておき相手からうまく話を引き出す、返事がなかなか来ないときに上手に催促するなど、人との接し方にも気を配ることが必要になってくる。これらは外で働いていればごく当たり前の行動であるが、子育て中でずっと家庭にいるという状況下にある多くの編集メンバーにとっては、そういう作業ですらとても新鮮に感じるものである。社会との接点を持つ、社会人としての自分を取り戻せるよい機会といえる。

②自分の担当ページをとにかく版下の形に仕上げなければならないので、みなパソコンを使わざるを得ないという状況に立たされる。そのためいやおうなくワードやエクセルの技術が向上する。オートシェイプやワードアートを自在に使えるようになり、地図を描くのにVISIOを使用したり、インターネットから無料のイラストを探してきて貼り付けたりという作業もできるようになる。パソコンが苦手な人や全くはじめてという人も、周りの人や家族に教えてもらいながらもとにかく打てるようになる。パソコン教室に通って技術のみを習うより、作らなければならないものがある、という差し迫った状況下におかれたほうが身につくのであろう。

③できあがったページを他の編集メンバーに校正してもらうことで、抜けている情報を指摘してもらったり、「自分はこういうことを書いたつもりが、読み手はこう受け取るかもしれない」という事実気付くことができる。編集メンバー同志で意見交換をしながら修正を加えて、より分かりやすくより「使える」情報にしていくという過程もとても有意義である。

④情報誌作りが公民館の講座である場合、市が関与した印刷物という扱いになるため、役所による内容チェックが行なわれる。その結果民間のお店情報が制限されたり、行政への意見や希望などは削除するよう言われたりする。編集メンバーの好きなように書いてよいと言っておきながら規制が入ることへの矛盾は感じながらも、違った立場からの意見にも耳を傾け、自分が載せたいからだけでは事が運ばないという経験をするこも、ひとつの勉強と言えるかもしれない。

⑤細かい記述の仕方になるが、「母親・ママ」ではなく「親・両親・パパママ」と書く、「子供」の「供」は家来を意味するからひらがな「子ども」を使うなど、普段何気なく使っている言葉も活字にするには注意が必要だということを知り、男女共同参画への意識を促すきっかけともなる。

⑥自分たちの努力の結果が、印刷された「情報誌」という目に見える形として現れるので、心地よい緊張感と充実した達成感を味わえる。さらにそれが他の市民にも配布されて活用されるという事実は、非常な喜びである。

## 2. 作成計画とプロセス

① 編集メンバーの仲間づくり

② 内容に関する話し合い、編集会議（ブレインストーミング）

\* すでに情報誌があったので、前作の内容を検討し再掲載内容を取捨選択



- ③ 掲載予定の情報について様々な角度から検討
- ④ 全体のページ数を決め台割作成及び各ページ毎に担当者を決定
- ⑤ 各自取材・原稿作成・版下作成作業
- ⑥ 各ページの校正及び行政チェック
- ⑦ 版下提出→印刷へ

### 3. 参加メンバー

市報・チラシ・口コミにより、子育て中の0歳～21歳の子を持つ親が実施館または草加子育てネットワーク代表に申し込みをした。

### 4. 期待される効果：当事者が作成する情報誌の意義

子育てをしている親たちというものは、一方的に情報を与えてもらうだけの弱い存在だと考えられがちだが、そうではない。もっと食欲に自分の知りたい情報を積極的に集めたい、自分が知っている情報をみんなに知らせたい、と考えているのである。そんな親たちの思いを生かす場として子育て情報誌作りというのは非常に有効である。ある編集メンバーは「普段できないことをしてみたい」、「知りたい情報を自分で調べるという作業は楽しいし、その過程もいろいろ勉強になる」と述べている。また「編集することが自分自身のためになり、足りないところがわかって振り返りができた」と言う声もある。2度目の参加となる編集メンバーは「今回自分は、ぜひ得意分野であるこれについてもっと掘り下げて調べて、みんなにも知ってもらいたい」と、最初から目的意識を持って参加してくる。

子ども連れで取材をしたり、話し合うことで子どもにも成長がみられる。取材に行くのにベビーカーや自転車の人など、普段行きなれない所には夫の車で協力を得たり、家での作業のパソコン打ちや、レイアウトなど夫に聞いて、教えてもらうことで夫婦のコミュニケーションが得られる。母親がいきいきと過ごすことで家族にとっても良い影響がある。

1でも触れたとおり、子育て当事者が情報誌を作成するということには大きな意義がある。密室育児で社会から孤立しているように感じている母親たちが、情報誌の編集を通じて、社会と関わりを持つことができる。育児と家事だけの毎日に、それ以外にしなければならないことがあるという事実は、大変ではあっても先が見える予定がある事で、非常に充実感を得る。情報誌の作成を通じて、作り手には社会参加を楽しむ大きな接点、集中できる有意義な時間を与える。更に、コラボレーションの楽しさを体感してもらい、それぞれの子育てを大切に子どものいる日常をエンパワーメントしながら、地域の子育て環境への意識、主体的な関わりを促すことができる。

読み手にとっても、現役のママたちが取捨選択した情報は、まさに自分の欲しかった情報と重なる。子育てなどしたことがない面々が一方的に与えてくれる「情報」と違い、「かゆいところに手が届く」情報である。子育て当事者の、当事者による、当事者のための情報誌。某都知事の「こんなもんが役に立つとは思えない」発言は子育てをしたことがないからこそ出る暴言。「これこそこの町の子育てバイブルだ」という読み手の感想が母親たちの真の声である。

子育て当事者が作成する子育て情報誌の意義として、次の3つが考えられる。

### (1) 既成の情報を分かりやすく

当事者であるから、「自分が知りたい情報＝読者が知りたい情報」である。あちらのパンフレットこちらのチラシなどに分散している既成の情報を取捨選択し、自分にとって本当に必要な情報（＝読者にとっても必要な情報）だけを凝縮して1冊にまとめることができる。

その際情報発信者に都合よく書かれている情報を、読み手の立場に立った分類のしかた、記述のしかたに翻訳(?)できるのである。こう言っては悪いが、例としてあげさせてもらおうと、市内には文化・コミュニティ施設として文化会館、コミセン、ミニコミセンがあり、勤労者のための施設として勤労福祉会館と勤労青少年ホームがある。これらは市役所の管轄が違うので市のパンフレットでは同じページに記載されることは少ない。しかし借りる立場からしてみれば、公共施設というカテゴリーで1つにまとまっているほうが便利なのである。子育てサークルで部屋を借りたい時に、そのページを開けば市内の全ての貸館が一目で分かるほうがありがたい。

もうひとつ乳幼児健診を例にとると、その年度の3歳児健診予定が記された「健康カレンダー」という市の印刷物はあるが、それには「今年の4月に受診するのは平成〇年△月生まれの子ども」という記述のしかたしかされておらず、草加市では3歳児健診とは通常3歳何ヶ月のときに受診するものなのかが知りたくても、さっぱり分からないのである(計算すれば分からないこともないが)。予防接種もまた然り。

このように情報を必要としている当事者だからこそ既成の情報の不便さが分かり、それを分かりやすく翻訳(変換?)したいと考え、そうすることが可能になってくるのである。

### (2) 当事者にしか分からない「こんな情報が欲しい」に対応

当事者であるから、多くの子育て中の親が「こんな情報が欲しいけれど、どこにも載っていない」と嘆いているものが何であるのかが、身をもってよく分かっている。それは当事者でなければ分からない視点であり、当事者でなければそんなものが情報として必要とは思ってもみないものである場合も多い。それは例えば施設のトイレのオムツ替え台の有無であったり、レストランの子ども用メニュー、宅配してくれるクリーニング店はどこか、などであったりする。これを調べて新たな情報として掲載すれば、読者にとっても「まさにそんな情報が欲しかったのよ」となるのである。

また、おでかけ場所でも「子ども連れで行った場合の設備の整い具合」という観点から調べるということも、当事者ならではと言えるであろう。

### (3) 波及効果

プロフェッショナルである編集プロダクションに依頼すれば、もっと体裁のいいスマートな情報誌が出来上がるかもしれない。しかし素人である子育ての当事者が作成する情報誌に、それに勝るものがあるとすれば、それは「熱意」ではないだろうか。ほとんどの編集メンバーが参加の動機として「自分自身も子育てについての地域の生の情報を知りたい

から」ということを理由にしている。その「知りたい」という思いが一生懸命な取材や原稿作成につながり、出来上がりがどうであれその「熱意」だけは読み手にもひしひしと伝わるのであろう。それが読者に「次回は自分も参加してみたい」という気持ちにさせるのだ。自分達自身が調べていく中で、今までの不平不満の不備な理由等が理解できて、色々な見方に変わり、自分の町の良さを知り大切にしたいくなる。こうして、一冊の子育て情報誌を通じて親たちの輪が広がっていくのである。

また参加した編集メンバーは、子育て情報についてテレビや新聞、広報などにもアンテナを張り巡らすようになり、情報誌作りにとどまらず地域の子育て環境への意識的、主体的なかかわりへと活動を広げていくようになる。

## サークル支援

### ★ 目的は？

ネットワークでは『親育ち』という事を大切に考えています。

『親育ち』とは一人の人間、一人の親として子育てを通じて成長していくことです。親子共々がたくさんの可能性の芽を伸ばすきっかけ作りとしてサークル支援をしています。親と子で遊びながら楽しんで交流し、家庭では味わえない体験をします。

### ★ どんな事をしているの？

それぞれのサークルでは主に就園前の親子を対象とし、スキンシップ、リトミック、体操、わらべうた、手遊び、創作、読み聞かせなどを行っています。小学生までを対象としたサークルもあります。それらの活動をお手伝いする子育てサポーターをネットワークが派遣し子どもの年齢にあった『あそび』などを紹介しています。

### ★ 近くに自分にあったサークルが見つからない

自分でサークルを作りましょう。5人ほどあつまればグループとして公民館などで場所を貸してもらえます。どのようにして作ったり活動すればよいかわからない時はネットワークにご相談ください。お手伝いさせていただきます。

## 各種講座

ネットワークでは下記のような各種講座をしています。講座は無料です。

### ★ 人間関係講座

「親子・家族・他人とはどうあるべきか」。私たちは互いに関わり合い、支えあって初めて人間関係を学ぶのではないのでしょうか。ここでは文教大学人間科学部の先生などを講師に迎え、そんな人間関係を考える講義を年に数回行います。

### ★ 子育てサポーター養成講座

子育てに悩み、戸惑いはつきもの。この講座は、子育てを少し踏みこんだ視点で考え、子育てを相互に支え合う活動に興味がある方のための講座です。公民館との共催なので、どなたでも受講可能。内容は「子どもの発達と親子の関わり方」「親の生き方と子どもが自立するためには」など毎回テーマに沿って開催されます。無料保育付なので、小さなお子さんをお持ちの方もぜひ参加してください。

## 通信

年に数回発行される楽しい会報誌です。ネットワーク登録者には郵送され、公共施設にも置かれます。ネットワーク主催のイベントやホッとひと息「子育てサロン」、各種講座の様子などが分かりやすく紹介され、新しい情報をいち早く知ることができます。その他スペシャルサロンで好評だった料理のレシピや絵本の紹介など内容は盛りだくさん。作るのは現役子育て中の親が数人ずつ交代で行っています。やってみたい人は誰でも大歓迎です。

## パネルシアター

子どもたちに人気のパネルシアター。

ネットワークの支援しているサークル活動や、イベントで使用しているパネルシアターは興味のある方が集まって作っています。サークルの自主活動で演じてみたい方、読み聞かせ等に興味のある方など、色々な人が参加しています。子どもたちが走り回ってにぎやかな中、和やかに(?)作成しています。興味がある方、不定期開催ですが、ぜひ参加しませんか?

(作品は今後貸し出しを検討中です。)

## イベント

ネットワーク主催のイベントは子どもの視点に立った工夫が多数盛り込まれています。ここで2003年度のイベントを紹介します。ネットワークの会員になると、こういったイベントに優先的に参加できます。開催時期はネットワーク通信を見てね。

★ 4月 草加子育てネットワーク総会&ミニコンサート

パーカッションと日本の三味線をミックスさせたアフリカンミュージックに感動しました。音楽に国境はない!?のです。

★ 8月 左岸広場で遊ぼう!

小麦粉から作られた顔料でボディペインティングを満喫した子どもたち。ポンプ車による放水体験は大迫力。ヨーヨー釣りやシャボン玉も大好評でした。

★ 12月 クリスマス会

本格的にメイクをしたピエロのこっけいなパントマイムに大爆笑。またスチールドラムの神秘的な音色にも聞きほれました。手作りのリサイクル遊具は親にとっても参考になりました。お金をかけなくても子どもの心はつかむことができるのです。

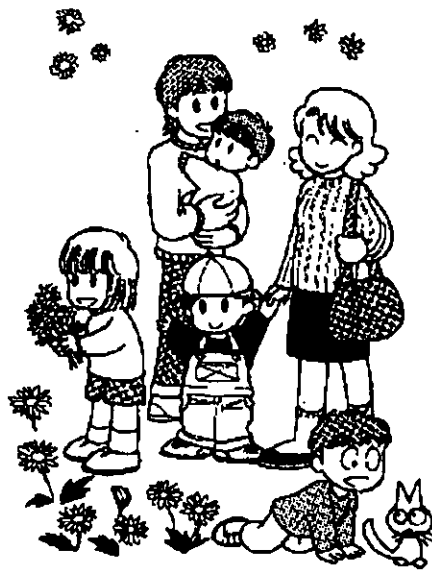
専門家によるカウンセリングも受けられます。

なにがなんだか? 「わからない」「イライラ」「つらい」 e t c のあなたなんでもどうぞ“ネットワーク”にご相談ください。

連絡をまっていますよ～ (^o^)

ちでも  
う  
とでも  
そ  
か  
がやけおやい  
草加子育てネットワーク

子育て真っ最中の親と子どもを対象にした、数カ所の“子育て自主サークル”活動がきっかけになり、子育てネットワークモデル事業“子育てサミット”を行いました。子育て中の親、主任児童委員、行政の福祉関係者などが出席しました。そこで、他市のネットワークのイキイキとした活動ぶりを目の当たりにし、ネットワークの必要性を感じ「草加にも自分たちで作ろう！」と思う仲間が集まり、草加子育てネットワークとして一歩を踏み出しました。研究者や専門家、子育て支援に関わる行政や関係機関を、子育て仲間や地域の子育て支援ネットワークと結ぶため、ヨチヨチとではありませんが歩んでいます。子どもは親の背を見て育つといわれています。子どもたちの目の輝きと創造力を失わないように人間らしく育てるには、親と一緒に楽しんで、悩んでも、共に歩まなければ子どもの心は共有できないと思います。地域みんなで楽しい子育てができる、そんな豊かな環境作りを目指しています。ひとりでも多くの人々の声を生かすため行政機関とのパイプ役となって活動することを大切にしています。



★草加子育てネットワークに関する問い合わせ 048-943-3796へ★

## 「子育てサロン」

子育てサポーターが見守る中、リラックスして話せる様に進めていきます。  
当日の参加年齢・人数など様子を見て、スキンシップ・手遊び・読み聞かせ  
などを決めたりと内容は臨機応変です。

♪情報は歩いてこない だから歩いていくんだよ～♪ 一歩踏み出してみよう！

★子育てしているとたくさんの疑問  
がありますよね。ちょっと子育てで  
不安に思っているけど相談窓口に行  
くほどでもないし…でも同じ様に子  
育てをしている人はどうしているの  
…知りたいのによく場所がない…子  
育てしている仲間がほしい…その日  
の調子に合わせて気楽に子育てをし  
ている人が集まれるところに行って  
みたい。無料で参加できたらな～。

★子育て中の方はもちろん、パパも  
妊娠期の方も、子育て一段落された  
方までどなたでも幅広く集いあえま  
す。子どもをもったからこそ気にな  
ること、感じること、ちょっとした  
悩みやイライラ、グチをおしゃべり  
しましょう！ホッと息抜きできる場  
です。自分らしさを取り戻し楽しん  
でいます。素敵な知恵や情報が得ら  
れるかも…。 こんな条件を

満たして  
くれる

ホッとひと息

場所は 「子育てサロン」と井戸端ひろば

時間内出入り自由・申し込みなし・無料！！

## 親と子の井戸端ひろば

自由にゆっくりと肩の力を抜きリラックスして、親と子で遊びながら楽しんで  
交流しています。

★年に数回スペシャルサロンを行ったりもしています。

地域における子育て支援ネットワークの構築に関する研究

研究協力者報告書

情報誌作成プロジェクトに参加したメンバーの満足度に関する研究

主任研究者 日本子ども家庭総合研究所 中村 敬  
研究協力者 日本子ども家庭総合研究所 根本 浩典  
研究協力者 草加子育てネットワーク 代表 八木下和江

【研究要旨】

地域における子育て情報誌(子育てマップ)を作成するにあたって、市報・チラシ・口コミにより応募した、0歳~21歳の子を持つ親21人のメンバーによるプロジェクトを結成した。

参加メンバーに対して、参加者がそれぞれもった動機、参加により獲得した満足感について、自由記載を主としたアンケート調査を実施した。

結果は、「動機は自分自身も地域の子育て情報が知りたい」が45%と最も多かったが、参加動機についての自由記載欄からは、自分の育児のための情報収集、子どもから離れた活動、自分の生き方を見つける、自分の経験を社会へ伝えたいなどがあるが、仲間づくりや自己実現に関する記載が多かった。

プロジェクトに参加した満足度について、訊ねた質問では、「自分のためになった」という満足感が高く、次いで「努力した成果があがった」であり、自己実現と自己達成感が中心になっていることが読み取れた。

参加による総合的な満足度は、「自分のためになった」という自己実現および達成感が総合的満足度ともっとも関係があり、また他者を意識する性向の強さも影響すると思われた。

見出語：子育てマップ 参加者 プロジェクト 感想 満足度 他者意識

A. 研究目的

子育てグループや子育て支援活動では、子育て中の親たちを支える地域子育て情報を編纂する活動が定番になっている。行政では子育て情報を冊子に編纂して配布するサービスが、多くの自治体で実施されており、子育て支援サービスの重要なメニューの一つになっている。一方、地域住民や民間の組織が編纂した子育て情報誌も出回っており、子育て当事者の人気を博している。今回は、地域住民のボランティアとして活動している子育てネットワークが自主的に取り組んでいる子育て情報誌作成のプロセスに焦点を当て、ボランティアとして参加し、情報収集と編集にあたった21名のメンバーに対して、参加動機、編集視点、完成後の意識について自由記載欄を主としたアンケート調査を実施し、何を求めて参加したのか、作業終了後の満足感は、どんな点に満足したのかについて、それぞれの意識を探った。また、個々の性向を探る質問を用意し、性格との関係も分析した。



## B. 研究方法

- 1) 対象：子育て情報誌作成プロジェクトに参加した子育て中のボランティア 21 名。
- 2) 自記式アンケート調査（別紙）：記入後まとめて回収。
- 3) 調査時期：情報誌作成の最終段階で実施。

## C. 研究結果および考察

### 1) 参加動機について。

参加動機は「自分自身も子育てについての生の情報がほしいから」がもっとも多く 45% であった。次いで、「実際に地域の子育て情報が乏しく困っているから」を理由に挙げた人が 30% を占めていた。

自由起算欄に記載された内容から共通する文字列をコードとして抽出すると、別添表の質問 1 に示した通りであるが、「新しい情報の発掘」、「人の集まりを楽しむ」、「育児のマンネリ化から抜け出したい」、「育児ライフを楽しめるヒント（好転のきっかけ）を得たい」、「いろいろ学びたい」、「過去の経験を生かした作業」、「行政との共同作業への期待」、「子育て以外のことを知る」、「子育て真っ最中でも参加できる」、「子どもから離れて活動できる（託児付き）」、「子どもと一緒に楽しめる」、「子どもの友だちを探せる」、「子育てサークル情報を知りたい」、「情報誌の作り方を知る」、「自分でやれる楽しみ」、「子どもも自分も自己実現の場」、「自分の町の情報を知る」、「仲間づくり」、「達成感を味わいたい」「自分の育児のための情報」などであり、活動に参加することによって閉塞的な子育てからの開放される糸口を掴みたい、自分の経験を人に伝えたいという自意識、子連れで参加でき、しかも子どもから離れて活動できる、自己実現を達成できるなどが主な動機と考えられた。

### 2) 重点をおいた視点。

この質問では、多くは子育てをしている母親の立場にたって、子育てを楽しめるような情報を収集したいという希望をもっていた。また、親がもっている口コミ情報をうまく情報として収録したいという視点をもっている人もいた。

### 3) 情報誌編集過程で遭遇した困難。

情報の整理に苦勞したこと、パソコン技術の不足で苦勞したこと、取材に関する苦勞、行政や市政への配慮により、掲載する内容に制約がかかることへのいらだちなどが挙げられていた。

### 4) 情報誌作成により自分自身として得られたこと。

「仲間づくり」ができたこと、「人に対して自分の意見が言える機会」、「作業を通して子どもへの理解が高まった」、「作業を通して自分が成長できた」、「自信を持てるようになった」、「地域への愛着が生まれた」、「パソコンの技術を獲得できたこと」、「いろいろな学びができた」などであり、子育てのストレスからある程度開放され、自己実現の機会が得られ、実際上有益な情報を取得できたことが挙げられていた。

### 5) 編集が完成した、その満足感について訊ねた。

「総合的に見た満足感」と「人のためになったと思う」、「自分のためになったと思う」、「情報の内容と質に満足か」、「子育て情報として十分な量か」、「努力しただけの成果があったか」の各項目との間の相関をみると、図 1 に示した通りで、各項目の「大いに満

足」と応えたものの割合 (%) と総合的満足度との間の相関係数との関係をXYグラフで表したものである。「自分のためになった」という満足感が、「総合的満足感」をもたらす最大の因子であることを示していた。

質問8の参加者の性格評価で、6項目について因子分析を行った結果を(質問8:表)で示したが、これによると、自分に対する意識を表す第一因子と他者に対する意識を表す第二因子が抽出された。

そこで、「総合的満足度」を目的変数とし、「人のためになったと思う」、「自分のためになったと思う」、「情報の内容と質に満足か」、「子育て情報として十分な量か」、「努力しただけの成果があったか」の各項目と因子分析で抽出された「第一因子因子得点」および「第二因子因子得点」を用いた重回帰モデルを作成したところ、重相関係数0.908であてはまりのよいモデルであることが証明された(質問5と質問8による重回帰分析出力表)。

図2は、共分散構造分析を用いて、目的変数を「総合的満足度」とし、満足度を表す質問5の各項目と質問8で抽出された「第一因子」と「第二因子」を潜在変数とする重回帰モデルを作成してみた(重相関係数0.88)。これによると、総合的満足度は「自分のためになったと思う」(0.67)、他人の見る目を意識した「他者への意識」(-0.39)の強さがもっとも影響を与えるものと考えられた。

また、「人のためになった」と「情報の内容と質」(0.64)とは強い相関関係が認められ、「自分のためになった」と「努力しただけの成果があがった」(0.57)も強い相関関係が認められた。

つまり、情報誌編纂のための活動によって得られた満足感は、「自分のためになった」という自己実現感および達成感の大きさと、個々の性格としての他者への意識の大きさによって規定されるものと考えられる(他人を意識する志向が強い人ほど総合的満足度は低い?)。「人のためになった」や「社会貢献」という結果には必ずしも結びつかないようであった。

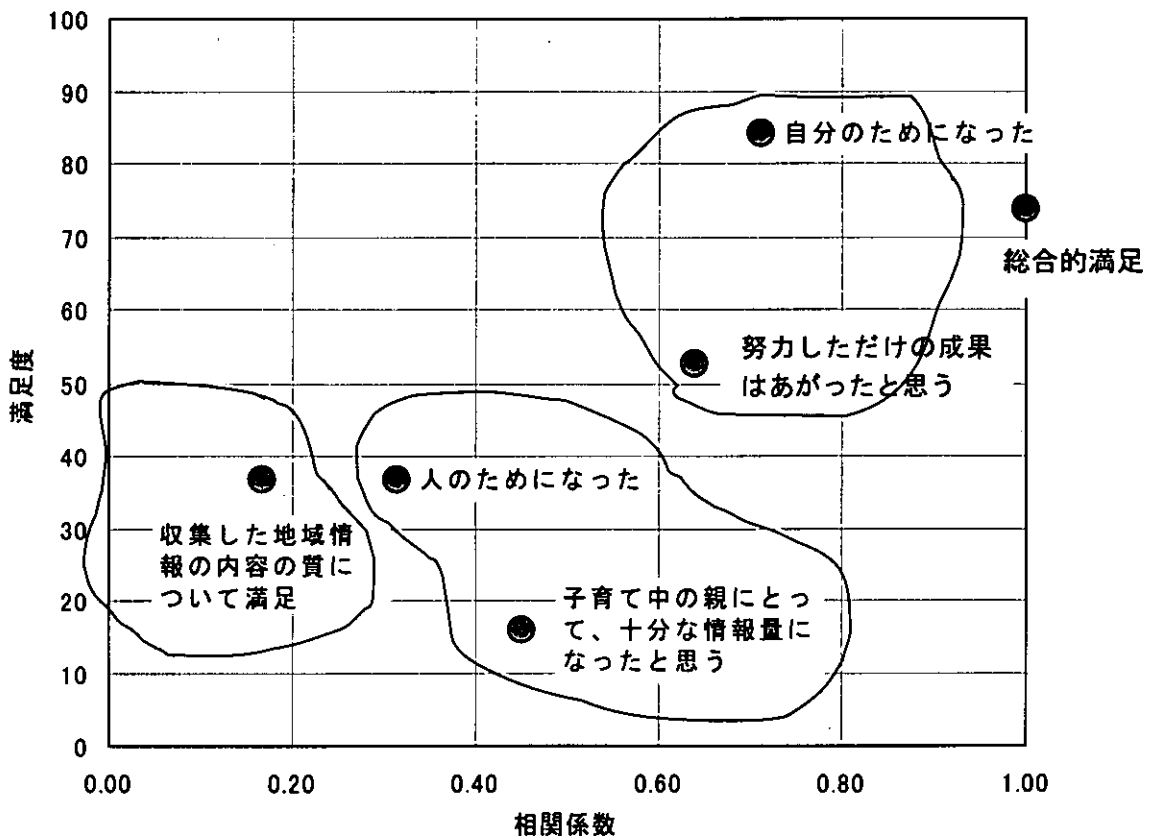
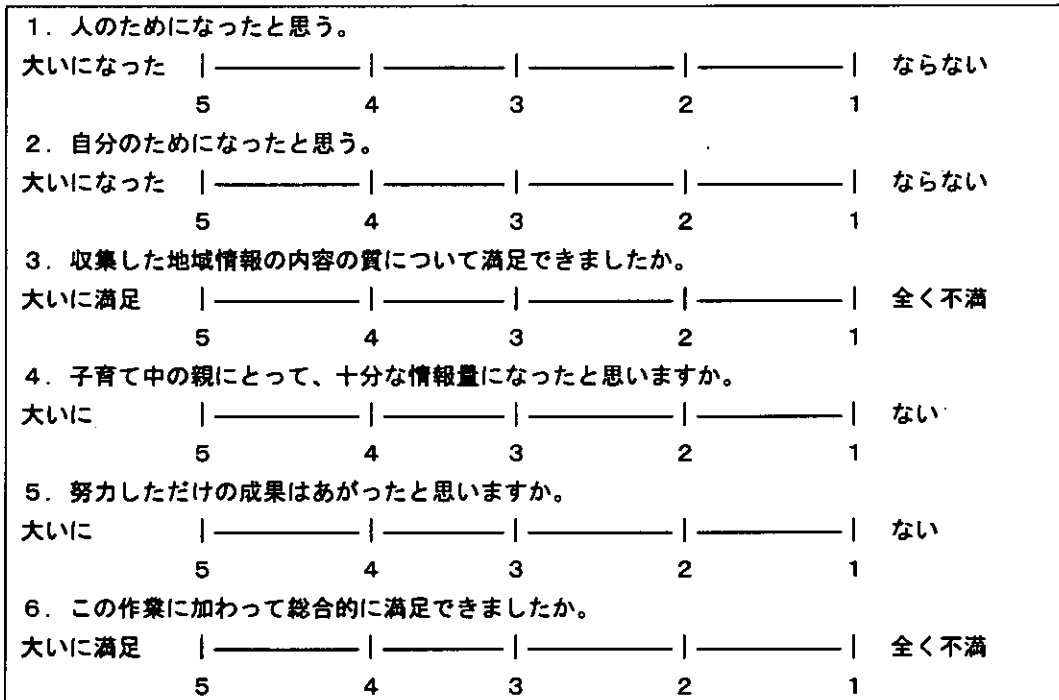
なおこの共分散構造分析モデルは、データ件数が関係すると思われるが、モデルの適合度としては、 $NFI0.520$ 、 $CFI0.654$ 、 $RMSA0.224$ であり、必ずしもよいとは言えない。しかし、目的変数である「総合的満足度」の重相関係数は0.86と大きく、あてはまりのよい重回帰モデルを示していた。

#### D. まとめ

情報誌作成に参加したメンバーは全員ボランティアであり、参加動機は自分の子育てのための情報を得たいという動機が最も多く、自分の知識を他人に提供したいという意見もあるが、概して自己実現と自分のためという動機によって参加していることがわかった。

2) 作業終了後の満足度をみると、総合的満足度は、自分のためになったことの満足感および達成感によって規定され、これに本人の性格が影響することを示していた。すなわち、他人を強く意識するタイプは総合的満足度が低くなるようであった。

図1：質問5：編集が完成して、その満足度について訊いた結果



このグラフは、6. 総合的にみて満足かの問いに対する点数と1～5までの満足度点数との相関をみたものもので、X軸に表してある。Y軸は1～6までの質問に対して「大いに～」と回答したものの割合を%で示したものである。

結果は、「総合的満足度」と関係の深い項目は、「努力しただけの成果」と「自分のためになった」であり、「達成感」と「自己実現」と密接に関係することが示されている。「内容の質」や「人のため」は「総合的な満足度」とはあまり強い関係のないことがわかった。